

日本写真学会 第33回「写真好き」のための定例講演会

「金丸重嶺 VS 名取洋之助 — オリンピック写真合戦 1936」展 解説と作品鑑賞

日本写真学会 第33回「写真好き」のための定例講演会は、JCIIフォトサロンで開催の「金丸重嶺 vs 名取洋之助 — オリンピック写真合戦 1936」の関係資料の解説と展示作品のギャラリートーク付き鑑賞会を企画しました。

定員は限定30名となっておりますので、参加希望の方はお早めにお申し込み下さい。

【開催日時】2018年6月27日(水) 14:00~16:30 (13:30 受付開始)

【開催会場】:JCIIビル 2階 200会議室 集合(東京メトロ 半蔵門線 半蔵門駅 徒歩1分)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル 1階

地図:⇒ <http://www.jcii-cameramuseum.jp/map/map.html#>

【プログラム】

第一部:『金丸重嶺 vs 名取洋之助 — オリンピック写真合戦 1936』作品および関係資料の解説 14:00~15:00

金丸重嶺(1900-1977)は、日本の商業フォトの先駆者であり、写真教育者として多くの後進を育てたことで知られています。名取洋之助(1910-1962)は、写真家となったドイツでの経験から組写真で語る(報道写真)の概念を日本に持ち込み、対外グラフ誌『NIPPON』の創刊や『岩波写真文庫』の制作で活躍しました。

1930年代の若き日には新しい写真表現を仕事に実現させようと邁進し、1936年開催のオリンピックベルリン大会では現地に赴いて選手や競技を取材しています。これらの経緯やその意味についての知見を解説します。

一般財団法人 日本カメラ財団 調査研究部長 白山真理 先生

第二部:フォトサロン作品鑑賞(会場案内・説明付き) 15:10~16:30

作品展の中心は、二人のオリンピック取材写真です。ヘルシンキで直前練習を行い、ベルリンに到着して歓迎を受け、選手村でくつろぎ、ナチス式敬礼でスタンドが埋まる開会式に臨み、競技に向かう選手たち。女子200m平泳ぎで金メダルを得た前畑秀子、棒高跳びで銀・銅メダルを分かち合った大江季雄と西田修平ら、選手らの息吹と時代の波を、二人それぞれが生き生きと切り取っています。

選手の人間性や社会を写し、競い合った二人の写真は、今日のオリンピック写真の原型とも言えましょう。

展示作品数:約81点(金丸38点、名取43点)

【参加費】日本写真学会会員:無料 学生:無料

注:非会員の方は、日本写真学会への入会手続き後参加を申し込みください。

【定員】30名限定(参加される方は必ず事前に申込をお願いします。)

【申込締切】2018年6月20日までに日本写真学会ホームページよりお申込みください。

<http://www.spstj.org/>